

西部版

地域の催しは浜松支局へ

18年度にも詳細設計

三遠南信 152号改良区間の4橋

浜松市は、国土交通省が整備を進める三遠南信自動車道のうち国道152号を改良して利用する区間で、翁川などに架設する9号橋と12、14号橋の詳細設計に着手するため、2018年度当初予算案に必要な委託費用を盛り込む方針だ。

9号は小所能沢、12、14号橋は翁川、14号橋は谷あいに架設する。詳細設計の納期はいずれも7カ月程度を見込む。

パブコメを募集

第2次国土利用計画策定へ

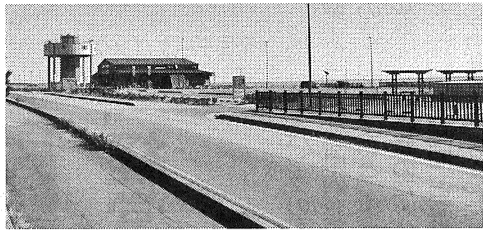
菊川市は、今後10年の土地利用の基本方針や考案をまとめた「第2次国土利用計画」を策定するため、パブリックコメントを実施し広く意見を募集している。意見の提出期間は12月21日。

福田アクセス 道路2期工事

年度内に発注

警田市

警田市は、福田漁港(豊浜地内)にアクセスする新道の整備に向け、2期工事を2017年度内に発注する予定だ。12月補正予算に設計変更などに伴う工事費増額分2280万円を計上した。



福田漁港へのアクセスを改善する

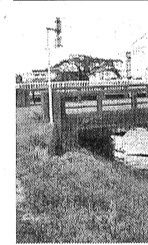
計画では、新道の総延長4.25kmのうち、漁港周辺にある保安林から南側の延長2.65km、幅員7.5mを整備する。また、保安林の解除に伴う静岡県との協議で排水溝を設置する必要が生じた

プロポを一般公開

文化会館基本設計

警田市は19日、豊田地区へ移転を計画する(仮称)警田市文化会館の基本設計受託候補者によるプロポーザル(プロポ)を一般公開した。市は、注目事業である新たな文化会館完成までの過程を市民に情報開示するため、プロポーザルを一般公開した。市として初の試み。当日は市民約40人が参加し、事業者7者が発表する新たな文化会館の設計プランを聴講した。

警田市は、市道大原千手堂幹線の千手堂橋を写真の架け替えを計画している。2018年度に詳細設計を行い、早ければ19年度に工事着手する予定だ。測量設計と地質調査を不二総合コンサルタント(浜松市北区)が



同橋は、千手堂地内の2級河川祝川に架かる。

規模は橋長15m、幅員7.5m。パイルベント橋脚による2径間のプレキャストコンクリート床版橋。1965年に供用を開始し、老朽化が進行している。市道大原千手堂幹線が市の緊急輸送路に指定されており、15年に実施した耐震診断で改修が必要と判断された。パイルベント橋脚の改修は難度が高くコストもかかるため、架け替えを行う方針で測量設計と地質調査を進める。



工事時期は河川協議の後で決めるが、19年度以降の早い段階で行う意向がある。

18年度以降に

耐震工事

浜松市は、西消防署庄内出張所(写真)の耐震補強を計画しており、工事を2018年度以降に行う予定だ。施設は鉄筋コンクリート造2階建て延べ570平方メートル。敷地面積は1930平方メートル。1978年に建設した。東南海・南海トラフ地震などに備



補強計画策定と実施設計は、飯尾建築設計事務所が担当。12月20日納期を進めている。

於呂浄水池耐震補強を12月

企業局西部

静岡県企業局西部事務所は、於呂浄水池(浜松市浜北区)浄水池の耐震補強を計画しており、工事を2018年12月に発注する。対象は同浄水池内に2池ある浄水池のうち1池。容量は2422立方メートル。コンクリートの増し打ちと、後施工アンカーによる補強、内面防水塗装を行う。16、17年度に行った耐震診断の結果、耐震補強が必要と判断した。工期は7カ月を見込み、債務負担行為を進める。

残る1池は18年度の第4四半期ごろに工事を発注する考えだ。



外来植物の除去作業を社員86人で行った。写真。

地域貢献

社員15人で清掃活動実施

川島組(掛川市、川島達也社長)は、地域貢献の一環として、都市計画道路葛川下保線と掛川市立中央小学校周辺の清掃活動を行った。写真。

参加した社員は「定期的な清掃の成果から、会社周辺のゴミは少なくなってきた。しかし、まだまだたばこやペットボトルなどのゴミが目立つので、今後もより一層美しい街になるよう努めていきたい」と語った。同社ではこの活動を2004年から毎月1回行っており、114回目となる。

中田島砂丘で外来植物除草

フジヤマ(浜松市中区、藤山義修社長)は、「しずおか未来の森サポーター活動」として中田島砂丘(浜松市南区西側)にあるピオトープ内のカワラハシノミウ生息地を対象に、外来植物の除去作業を社員86人で行った。写真。

カワラハシノミウは、海岸砂丘や大きな河川の河原に生息し、県の絶滅危惧種に指定されている。同社では、静岡県浜松土木事務所や県立浜松南高校(浜松市南区)生物部の生徒と協力し、地域の環境を守り育てる活動を今後も進める方針だ。

安全大会

170人が無事故無災害誓う

浜松河川国道(国道交通省浜松河川国道事務所)は22日、浜松市内で工事安全協議会を開いた。同事務所の尾藤文人(写真)所長をはじめ建設関係者ら約170人が参加した。写真。

尾藤所長は「心を一つにして安全を確保することが大切。総会を安全管理のレベルアップにつなげてほしい」とあいさつした。総会では、国交省中部地方整備局管内の工事事故発生状況などを説明。浜松労働基準監督署の神山孝安(写真)所長による「建設業の労働災害について」、建設労働災害防止協会静岡支部浜松分会の須浦章氏による「一括安全管理のしくみ」をテーマとする講演も行った。最後に、安全宣言で無事故無災害を誓った。